



第 97 号(平成 29 年 11 月 24 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は次の方々に長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則的に 1 週間ごとにお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。

- ◇お客様と接する登山用品店舗スタッフの方
- ◇インターネットの登山情報サイトを利用される登山者
- ◇長野県内の各地区山岳遭難防止対策協会

平成 29 年中の山岳遭難発生状況(平成 29 年 1 月 1 日～11 月 12 日)

BC(バックカントリー)は、登山行為を伴う「スキー(スノーボード)登山」と登山行為を伴わない「ゲレンデ外滑走」の総称。

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)外国人
平成 29 年	280	56	3	145	106	310	25
平成 28 年	263	42	5	144	102	293	15
前年同期比	17	14	-2	1	4	17	10
内)BC	22	1	1	9	16	27	10

山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北アルプス	槍穂高	60	21.4%	16	1	32	13	62
	後立山	58	20.7%	8	1	32	21	62
	その他	35	12.5%	4	1	22	11	38
	計	153	54.6%	28	3	86	45	162
中央アルプス	21	7.5%	5		10	7	22	
南アルプス	15	5.4%	5		7	3	15	
八ヶ岳連峰	30	10.7%	7		18	12	37	
その他の山岳	61	21.8%	11		24	39	74	
計	280		56	3	145	106	310	

態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	81	28.9%	25		61		86
転倒	72	25.7%			72		72
病気	28	10.0%	13			15	28
道迷い	51	18.2%				75	75
落石	7	2.5%	1		6		7
雪崩	5	1.8%	4		2		6
落雷		0.0%					0
疲労凍死傷	17	6.1%	3			14	17
不明・他	19	6.8%	10	3	4	2	19
計	280		56	3	145	106	310

男女別・年齢別比率

区分	男性					(人) 比率	女性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	1			3	4	50人 23.6%				1	1	16人 16.3%	5	66人 21.3%
20代	3		7	13	23				2	3	5		28	
30代	5		10	8	23		1		5	4	10		33	
40代	4		14	6	24	68人 32.1%	1		10	4	15	37人 37.8%	39	105人 33.9%
50代	10	2	22	10	44		1		15	6	22		66	
60代	15	1	16	14	46	94人 44.3%	1		19	5	25	45人 45.9%	71	139人 44.8%
70以上	12		17	19	48		2		8	10	20		68	
計	50	3	86	73	212		6	0	59	33	98		310	
比率	68.4%						31.6%							

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
11月9日	八ヶ岳連峰 横岳	41	男	滑落	負傷	小同心をクライミング中、バランスを崩して滑落し負傷

9日、八ヶ岳連峰横岳で、男性 A さん 41 歳がクライミング中に滑落して、左足打撲等の軽傷を負う山岳遭難が発生し、県警へりで救助しました。

遭難現場の状況



山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

11月9日に山岳遭難が発生した八ヶ岳は、長野県内の高峰では比較的雪の遅い山域ですが、徐々に雪化粧を始めています。これから冬季になると八ヶ岳は一般の冬山登山や、バリエーションルート登山、アイスクライミング等に多くの登山者が訪れます。八ヶ岳の冬山は冬季営業をしている山小屋もあり、アクセスも良く、情報も豊富なことから多くの登山者に親しまれている一方、毎年悲惨な遭難が後を絶ちません。入門者向けのコースでも積雪や天候によっては非常に危険な場合もあります。体力、装備、知識等に普段から磨きをかけて万全の準備で山に向かいましょう。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp まで

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝